

銀賞

ただ直すことが保全ではない

愛三工業株式会社 安城工場

加藤 剛士

今日も保全の作業場に故障のアラームが鳴り響く。「また故障かよ、故障を少しでも減らしたいな」と思いながら、今日も台車を押し私は現場へと向かう。私は現場に配属されて4年目になる保全マンです。配属当初は保全という仕事に対して右も左も分からない状態で先輩方の故障対応に同行させてもらい、後ろから先輩方の作業を見て学び、迅速な対応で修理をする先輩の姿を見て「早く設備を直し、ライン稼働できるようにしている保全マンは格好良い」と思っていました。いざ自分一人で故障対応に行くと何もできない事ばかりでした。年を重ねるごとに一人でも少しずつ直せるようになってきました。そんなある日班長から「なんでこのセンサーは断線したんだと思う？」と尋ねられた私はセンサーを交換して早くライン稼働が出来ればよいと考えて作業していた為、「何かに引っ張られて断線したんだと思います。」と答えました。すると班長から「なんで何かに引っ張られて断線したの、改善した？」と問われましたが、私は「何も改善してないです」と答えると「ただ物を交換して早く設備を稼働させることが保全じゃないよ、故障対応した設備が再度また同じように故障しないようにするのが保全だよ」と言われ、私は故障が多いんだから早く直した方がいいでしょという考えは本当の保全作業ではないと気付かされました。。それから月日が経ち、故障対応をしている時でした。「これ前に自分が交換したセンサーだよな？また断線してるな」と気づき、その時班長に言われた「ただ物を交換して早く設備を稼働させることが保全じゃないよ、故障対応した設備が再度また同じ故障しないようにするのが保全だよ」という言葉が頭に浮かびました。私はそれを見てどこに引っかかってこのセンサーは断線しているんだろう、どうしたら断線しなくなるのかと考えながらセンサー交換作業を実施しました。それ以降故障対応をする際に何故そうなるのか、どうしたら同じ事が起きなくなるのか理由や対策案を考えて作業するようになりました。以前までやっていたなぜなぜ分析の思考範囲が大きく広がり、設備をただ直すだけではなく小さな違和感に気づき改善をし、より良い設備を作りたいと思うようになりました。考え方の変化によりセンサー交換では今まではただ部品の交換のみ

を行っていたのが、配線の取り回しや固定が悪くどこかへ干渉していないかなど要素作業を気にするようになりました。またクーラントポンプ交換作業では、クーラントタンク内に泥が蓄積していないか、取付方向が悪く配線に負荷が掛かっていないかなど注意するようになりました。日々の保全作業の中で何事にも理由や原因があると考えようになり、ただ部品を交換するだけではなく、より一つでも多くの改善をし、再度同じ故障が発生しないようにと心掛けるようになりました。そして保全マンだけでは設備の良い状態を保つのは難しいということに気付き、製造ラインのオペレーターの方たちと日々コミュニケーションを取っていくことが大切だという事を実感しました。普段一番近くで設備を見ているオペレーターの方々が気づいた小さな変化や小さな違和感に対応していき、常日頃から疑問を持ち続け、予防改善をしていくことにより、今よりももっと多くの設備を良い状態に保つことが出来るのだと思います。格好良い保全マンとは「迅速に設備を復旧させ、かつ設備をより良い状態にし、再発故障を発生させない」これが私の思う格好良い保全マンだと思います。